

第2回子どもの読書活動推進研修会に参加して

学校図書館の存在の大きさを学んだ

今回初めて参加しました。子どもの読書に関心を持ち、小4の子どもたちと読書の楽しさを思う存分味わっています。司書教諭ではありません。資格を取ろうかなとは思っているのですが、学校には確かに図書室はあるのですが、今回紹介のあった玖珠の森中央小学校、素晴らしい展示を見せてくれた三光中学校の足の毛もむしれない、本当に恥ずかしい「本置場」に過ぎません。そんな場所を当てにしないでも私の学級で、持ち寄りの学級文庫で、保護者（家庭）と協力して読書活動を推進していけば、本大好き子は育つという自信を持ってやっています。（やってきました。）

しかし、研修会で学校図書館に司書教諭や学校司書といった専任の人がいて、子どもたちの声を聞き、要望をつかみ、本を選び、教育課程に寄与する本や資料を整え、計画的に蔵書構築を進めていくことの大切さを強く感じるようになりました。子どもたちが行きたくなるような学校図書館の実際の姿を見て、知って、ちまちまと、本を喜んで読む子に育てるという読書指導に満足していた自分が少々恥ずかしくなりました。

私の学級の子どもたちは本が大好きで、朝読書の時間だけでなく、週1回特設の「本を読む時間」や「雨の日文庫の時間」は喜んで本を読んでいます。家庭での読書もかなり取り組みが進んでいます。これらのことは今後も進めてまいります、もっともっと学校図書館に目を向けなければならぬと痛感しました。学校教育全体を大きく

前進させるために学校図書館の存在はきわめて大きいということを学んだ研修会でした。

宇佐の駅館小学校の全校的な取り組みに拍手を贈ります。研究校でもないのに長年にわたり読書を基盤にした学校づくりを推進していることに敬意を表したいと思います。図書館との提携、地域の人々との連携、ボランティアの人たちの応援、「読書と文化活動の学校」という誇りを児童も先生も保護者も地域の皆さんも抱いて、みんなの力を結集して取り組んでいる姿は非常に尊いものだと感じました。

分厚い資料を時々読んでいますが、とくに大分県の基本計画を各学校でもっと検討してみてもどうでしょうか。検討の結果を持ち寄って、大分県の計画を立てた人にも参加してもらって、計画が絵に描いた餅にならないようにしていってほしいと考えますが、どうでしょうか。

この研修会を知らない人がまだまだたくさんいます。輪を広げるためには、研修会そのもののあり方を変えていくこと、周知徹底のための宣伝活動の展開に力を入れていくべきでしょう。

とりとめのないことばかり申し上げました。研修会を企画運営してくださった方々にお礼を申し上げます。ますますのご発展をお祈りします。

（小学校教諭）